

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	教科教育法（算数）（※情報通信技術の活用を含む）						授業形態	講義	
科目コード	750092	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
教員氏名	河野 康男								
授業概要	<p>授業の概要</p> <p>(1)算数の学習指導要領をもとに、幼稚園から小学校までの算数カリキュラムの全体像およびそれぞれの学年に含まれる主要な算数・数学教育理念の理解をはかる。</p> <p>(2)児童の学習をサポートするために、さまざまなタイプのモデルや教材がどのように使用されるのかを提示する。</p> <p>(3)そのことを踏まえて、領域ごとに数学的活動を設け、必要な教材やモデルを自らで考え、効率的かつ効果的な算数教授法をグループで発表し、討論する。</p> <p>(4)児童の数学的見方・考え方を構築する方法、数学的思考や数学概念の習得方法についての理解を深める。</p> <p>(5)学習支援のストラテジーとして、直観力を掴む算数道具やタブレットなどICT等の情報通信技術については積極的に活用を図る。</p> <p>(6)以上を踏まえ、グループで指導計画を立て、模擬授業を実施する。</p>								
関連する科目	算数を事前に受講しておくことが望ましい。								
授業の進め方と方法	はじめに復習を位置付け、内容の説明の後、数学的活動、ディスカッションを通して、授業を展開する。								
授業計画	<p>第1回 学習指導要領改訂の趣旨について ・これからの社会で求められる資質・能力と現在の算数科教育に見られる課題について学ぶ。</p> <p>第2回 学習指導要領と教師の役割について ・小学校学習指導要領の意義と目的を理解し、教師の役割について学ぶ。</p> <p>第3回 「数と計算」「図形」領域の系統性について ・学習指導要領算数科（解説編）「第2章 第2節 算数科の内容」の「数と計算」「図形」領域の指導のポイントについて学ぶ。</p> <p>第4回 「測定」「変化と図形」領域の系統性について ・学習指導要領算数科（解説編）「第2章 第2節 算数科の内容」の「測定」「変化と図形」領域の指導のポイントについて学ぶ。</p> <p>第5回 学習指導要領と解説編、教科書、授業との関係について ・学習指導要領等との関係から1単位時間の授業の工夫について学ぶ。</p> <p>第6回 学習指導要領（解説編）の活用について ・学習指導要領と解説編との具体的活用方法について学ぶ。</p> <p>第7回 優れた授業に学ぶ（1） ・6年生「資料の調べ方」の教科書をもとに授業のポイントを明らかにし、授業の展開を構想する。（個人思考）</p> <p>第8回 優れた授業に学ぶ（2） ・ベテラン教師の作成した指導案（6年「資料の調べ方」）をもとに授業のポイントを確認して、実際の授業をVTRで視聴して教師の意図と授業の工夫について気付いたことを記述する。</p> <p>第9回 優れた授業に学ぶ（3） ・ベテラン教師の授業（6年「資料の調べ方」）VTRをもとに解説と合わせて視聴し、教師の意図と授業の工夫について学ぶ。</p> <p>第10回 指導案の書き方（情報通信技術の積極的活用を図る） ・指導案の様式を学び、各指導過程について、その目的と記入すべき内容について学ぶ。</p> <p>第11回 情報技術通信等の活用と指導案作成 ・教科書及び学習指導要領（解説編）を活用して、ICT等の情報通信技術の活用を位置付けて指導内容の系統を考えた指導案を作成する。</p> <p>第12回 授業構想についての意見交換（情報通信技術の積極的活用を含む） ・作成した指導案をもとに、授業構想について意見交換を行う。</p> <p>第13回 模擬授業をする。（情報通信技術の積極的活用を図る） ・グループに分かれ模擬授業を行い、振り返りをする。1人（15分模擬授業+5分振り返り）</p> <p>第14回 模擬授業をする。（情報通信技術の積極的活用を図る） ・グループに分かれて模擬授業を行い、振り返りをする。1人（15分模擬授業+5分振り返り）</p> <p>第15回 算数科授業についてのまとめ ・学習を振り返り、算数科授業について学んだことをまとめる。</p>								

授業の到達目標	<p>1 幼稚園教育要領と小学校学習指導要領との関連とその内容を理解している。【知識・理解】</p> <p>2 算数の学習指導要領の4つの領域に応じて、ICT等の情報通信技術を活用し指導方法を工夫することができる。【指導スキル・情報リテラシー】</p> <p>3 学習指導要領を基に、数学的活動を通して、児童の数学的見方・考え方を養成する方法を獲得する。【問題解決力】</p> <p>4 指導案の作成と模擬授業を行い、反省をもとによりよい指導法に改善することができる。【指導スキル・問題解決力】</p>									
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力	(1)	○	(2)						
	2. 汎用的技能を応用し活用する能力	(1)	○	(2)	○					
	3. 人間力、社会性、国際性の涵養	(1)		(2)	○	(3)	○	(4)		(5)
授業時間外の学修	〈予習〉指定した範囲を事前に熟読し、次回の講義内容を把握しておく。(約1時間)									
	〈復習〉受講後は、その内容を確認し復習する。(約30分)									
課題に対するフィードバック	レポート及びその発表内容については、返却時に解説を行う。									
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) レポート及びその発表内容(50%) 2) テスト(50%)									
テキスト	1 『小学校学習指導要領解説 算数編』(文部科学省、最新版) 2 必要に応じて資料を配布									
参考書	1 黒木哲徳『入門算数学』(日本評論社) 2 『幼稚園教育要領(文科省)・保育所指針(厚生労働省)』(チャイルド本社、最新版) 備考									
備考										